

未来のための

予防接種

将来の妊娠・出産のために、早めのワクチン接種を推奨しています

ワクチン接種の目的は？

妊娠中に感染症に感染すると、お母さんの重症化、赤ちゃんへのリスク(流産・早産など)が高くなります。感染症の中にはワクチン接種で免疫をつけることで予防できるものがありますが、妊娠中の生ワクチン接種は絶対にできません。そのため将来、妊娠・出産を考えている方に早めのワクチン接種を推奨しています。



インフルエンザワクチンは不活化ワクチンといい、妊娠中でも接種が可能です

接種回数について

各ワクチンは**計2回の接種が必要**です。対象の感染症にかかったことがなく、計2回に満たない方は接種を受けましょう(接種歴が不明な場合も含まれます)

特に注意したい感染症

水ぼうそう(水痘) 料金 6,600円/1回

Q| どんな病気?

全身のかゆみや発熱、肺炎、髄膜炎など様々な症状を起こします。大人が感染すると重症化しやすく、治っても免疫が低下した際に別の病気を発症する危険性があります。同じ部屋にいただけでも感染(空気感染)するほど感染力の強いウイルスです。

Q| 赤ちゃんへの影響は?

妊娠初期(20週まで)にお母さんが感染するとおなかの中で先天性水痘症候群という病気になる可能性があります。手足の形成がうまくできなかったり、目や頭への障がいが起こります。

おたふくかぜ 料金 4,800円/1回

Q| どんな病気?

熱が出て、ほほやあごの下のあたりが腫れます。頭痛や食欲低下、筋肉痛も一緒に起こる場合があります。大人が感染すると高熱、腫れや痛みが強くなり、耳が聞こえづらくなるなどの後遺症が残る場合もあります。

Q| 赤ちゃんへの影響は?

妊娠初期(20週まで)に感染すると、流産率が高くなったり、低出生体重児となる傾向にあります。日本ではワクチン接種率が約40%^{*}と低く、今後の流行に備えて接種を推奨しています。

*「2015-2016年にかけて発症したムンプス難聴の大規模全国調査」より

